

基本政策	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	4点満点 評価	改善策	外部 評価	学校関係者評価でいただいた意見等
心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む	ものを つくる喜び 科学する心 未来を 拓く力	「主体的・対話的」の実現に向けて、授業改善の取り組み	・授業研究会や研究授業の実施	○授業研究会は考查ごと(5回)実施また校内研究授業は理科、地歴公民科で実施 ○2年次研修研究授業(英語科)、防災教育公開授業(都市工学科)を実施 ■協議や授業者へのフィードバックの充実が課題	3	・授業研究会や研究授業の回数や設定日を工夫するなど、多くの教員が参加しやすくする ・全体で新学習指導要領における学びや評価について研修し、教科の違いを超えて授業について話し合える環境を整える	A	・10年後の工業教育とは何かを念頭に、横断を進めて欲しい(AI,IOT等をどう取り入れるか) ・新時代の科学技術を担う人材として求められる資質・能力の育成のため、教科の枠にとらわれず、学校として一貫性をもった授業改善を期待 ・WWLの活動の充実を期待 ・新学習指導要領の実施に際し、生徒によるICT活用や情報活用能力の育成が欠かせない。ICTを日常的に活用する環境づくりが必須であるが、神戸市のICT環境整備やセキュリティポリシーは全国的に見てもかなり遅れをとっている。この点については市としての課題であるが、可能などころから学校としても取り組み、市教委等にさまざまな必要な要望をあげていただきたい ・普通教科の授業充実と規律の確保も大切 ・シラバスに関して生徒が理解を深めることが大切 ・課題研究等を行うことで生徒の積極的な取組もできるのでは
			・各教科等に応じたシラバスの策定	○各教科に応じたシラバスの策定は、概ねできており、生徒へは最初の授業で配布 ■新学習指導要領の実施に向け改訂作業が必要		・新学習指導要領の実施に向け各教科科目のシラバスを再検討する ・シラバスの記述内容や提示方法について見直しを図る		
			・思考、判断、表現する場面を授業で設ける。	○計画表、評価表なども活用され生徒が主体的かつ計画的に活動 ○課題研究をはじめ多くの科目で「思考力・判断力・表現力」を養うことに取り組んでいる ■すべての教科科目で意識して取り組む必要がある。特に座学と実習との関連性や連携について再検討する必要あり		・新学習指導要領実施に向けたシラバスの検討に加え、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業について研修・研究を行う ・WWL共同実施校の2年目を迎えるにあたり、外部の課題研究・探究活動の発表会等への積極的参加し、思考力・判断力・表現力を総合的に養う機会を積極的に持つ		
	キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成	・各部署間で連携を図り、キャリア教育の視点で教育活動の実施	○キャリアセンターを中心に諸行事が企画されており、例年よりは各部署の連携を取ろうとする動きが感じられたが、改善の余地もある	3	・各科のキャリア担当がそれぞれの計画や取組を持ち寄りキャリアセンターに情報を集約し調整を図る ・管理職も参加した科長会や、全定合同科長会などを実施しているが、次年度以降も定期的に実施し共通理解を深める	A	・企業任せのインターンシップではなく、学校の教員がしっかりと関わりながら内容を作っているため、実のある体験・学びが実現している ・eポートフォリオの中学校現場との情報共有をお願いしたい ・システム手帳の活用を通して、生徒の自己管理の力を高めるための取り組みを積極的に行っており、評価と改善の方策は妥当である ・生徒がシステム手帳を使いこなすようになってほしい ・システム手帳の活用を習慣づけるためには教員によるチェックも一定期間必要ではないか ・手帳への書き込みの習慣づけ、活用の習慣づけが必要	
		・インターンシップ、オープンキャンパス等の参加の推進	○長期休業中を中心に取組を進めている ■参加希望者の増加に伴い新たな受け入れ先の開拓の必要あり ■事前指導・事後指導を充実させ、目的や意義を十分理解したうえで参加し、事後の振り返りと生徒間での共有が図れるよう工夫する必要がある		・各工業科を中心に、部署間が連携し、より一層の推進に努める ・インターンシップ受け入れを始める企業が増えつつある現状を踏まえ新たな実施方法の研究を進める			
		・システム手帳の有効活用	■行事予定が入ることにより生徒が活用する機会が増えたが、依然一部の生徒のみの活用にとどまっている ■習慣づけるためには、教員側がもっと意識的に活用する機会を作っていく必要がある		・折に触れ、システム手帳を活用できるよう、集会・授業・HRなどの様々な場面で使用の機会を提供する			
	ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材の育成	・職業資格・技能検定試験の合格率アップ	○朝学の時間を利用したり、補習を行ったりするなど各科工夫をして取り組んでいる ■実技指導等を行う上においても教員自身の技能と伝達技術の向上が求められ、若手教員への技能・技術の継承が課題	3.2	・特定の先生に負担が偏らないように工業科で調整する ・後継者の育成を計画的に長期休業中または定期的に研修ができる体制づくりを行う	A	・科学工学科で実施した企業等の指導を受ける課題研究を、他科でも検討してはどうか ・インターンシップや課題研究などの内容が充実し、かつ社会的にも意味のある顕著な成果があがっているため、これらの取り組みが市民や中学生などに周知されるよう、神戸市やマスメディア等と連携して積極的に情報発信をしていただきたい ・伝達技術の向上のためにも若手教員への技術伝承もしっかりしていただきたい ・6S活動は社会人の基本、しっかり教育をお願いしたい	
		・積極的な地域貢献を行い、その取り組みを校外に発信	○課題研究や部活動・研究会において積極的に実施 ■発信が十分にできているとは言えない部分がある		・神戸市の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に応募予定 ・広報を強化し情報を集約しホームページ等で発信する ・生徒のインセンティブを高める一策としてボランティア単位の認定も検討			
		・安全教育の推進	○積極的に実施している ■形式的になりがち部分であり、常に意識を新たに取り組む必要がある ■今後、多様な生徒が入学してくるのさらに対策が必要		・ヒヤリハット運動を継続的に推し進める ・6Sとして、さらに充実させる ・新型工作機械や工具の導入に伴い、実習安全の見直しを行う			
	安心・安全で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える	社会で生きる力の育成	インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境の構築	PDCAサイクルによる授業改善	■教科により取組にばらつきがあるように思われる ■授業評価アンケートが十分には活用できていない	2.9	・授業研究会のさらなる充実と全体研修の実施 ・各教科会等における研究・研修の実施	B
資格取得やものづくりを通して、基礎的・基本的な技術を身につける。			いじめの早期発見・早期対応及び情報モラル研修の実施	○年2回実施のいじめアンケートから実態を早期把握 ○相談しやすい環境・関係づくりを心掛けている ○毎月の科会議で生徒の情報交換を実施 ■科や学年を越えた情報が入りにくい部分もある	・定期的ないじめアンケートにとどまらず、日々の観察の中で得た情報を積極的に共有するとともに、広い範囲での定期的な情報交換会を実施			
			合理的配慮による組織的・継続的支援	○保護者対応を含めて、きめ細やかな対応がなされている ■「組織的」という部分では不十分な面もある	・発達障害など生きづらさを抱えている生徒に寄り添った指導を今後とも進める ・高等学校にも導入された通級による指導を、有効に活用する			
専門技術、先端技術を意欲的に学習する		○各科で資格取得を推奨したり、研究会でものづくりコンテストに挑戦させるなど、生徒の興味・関心を励起している	○インターンシップや企業内研修を積極的に実施 ○新型工作機械や工具の導入に伴い教員の実技研修を実施 ■専門技術や先端技術に関する教員自身の研修時間を取れないのが現状	2.9	・科内だけでなく、学科間の連携をしっかり図る ・各科シラバスを見直し、座学、実習、教科間等の連携を踏まえた年間計画を作成する ・更に企業や専門家と連携を図る ・工業科の若手教員の技術・技能の向上の機会を提供する	A	・学科間の連携強化が必要だと思う ・インターンシップでは、従来の研修先に加え、新規研修先をどんどん開拓して欲しい ・OJTにおけるメンターの役割を大切にほしい ・専門技術・先端技術の向上については若手教員のみならず向上を目指し、生徒たちにわかりやすく指導願いたい	
ホームページの更新頻度及び内容の向上	○昨年度より更新頻度や内容が向上 ■各科・部署の更新頻度にはばらつきがみられる	3.5	・生徒向け、保護者向け、中学生や一般の人向けの情報をわかりやすく整理し、中学生や一般の人向けには、工業高校の取組が理解しやすいものとする	A	・一般向けの発信に努力して欲しい(成果の大なる案件は新聞やラジオなどにも、持込んで) ・来年度「広報」に重点を置いて、中学校現場まで行き渡る取組を期待する ・昨年度より更新頻度ははるかに向上しているので継続ねがいたい			
育友会本部役員との情報交換	○月に一度の情報交換を実施するとともに行事等に積極的に関わっていただいた ■学年等との情報交換は不十分	2.7	・定期的な情報交換を引き続き充実させる ・学年や他部署との情報交換・共有の方策を検討する	B	・学年の先生方との情報交換等、年に2回程度、時間を設けてもよいかと思う			

4:達成できた  
3:ほぼ達成できた  
2:あまり達成できなかった  
1:達成できなかった

A:自己評価及び改善の方策は適当である  
B:自己評価及び改善の方策は概ね適当である  
C:自己評価及び改善の方策は適当でない  
D:外部評価できない